



本市において緊急事態宣言終結後、7月中旬まで新型コロナウイルス感染者数は11名にとどまっていますが、直近約2週間で新規感染者35名(8/1現在)が確認されています。都内では1日400名以上の新規感染者が確認されています。感染拡大は、これまで以上に深刻さを増しています。保育園では、マスク着用、消毒、丁寧な手洗いを徹底していますが、不安はぬぐい去ることができません。そうした中で子どもたちが少しでも園生活を楽しめる企画を先生たちが考えてくれました。例年の「お祭り広場」を子どもたち主体の「ごっこ遊び」に発展させた内容です。7月29日から31日の3日間、仮園舎とその前のスペース、園庭で行いました。縁日の屋台で出す品物や役割分担など、子どもたちが話し合い、知恵を出し合って決めました。その準備や子どもたちが楽しみにしている様子をクラス日誌からお伝えします。

【7月20日 きいろ組保育日誌—たこ焼き作り】

「お祭りごっこ」に向けて少しずつ準備を進めていた。年長児、年中児が主に中心となり製作しているが、「年少児もお祭りごっこのイメージが少しでも膨らむといいな」という思いから、子どもから出ていたたこ焼き屋さんのたこ焼き器を保育者が作ったので、年少児の何人かにさっそく見せた。「たこ焼き、焼く」と喜び、たこ焼き器で遊び始めた。その年少児に保育者が「たこ焼き、まだ1個しかないんだ。作ろうよ。」と誘うと、喜んでたこ焼き作りが始まった。年長児、年中児がちぎった新聞紙を年少児がいくつも丸めてくれた。ほかの子も加わりどんどんたこ焼きができていった。丸めた新聞紙を茶色の紙でくるむと、年少児がペンでソースや青のり、紅しょうがを描いた。年少の女の子が他の子に「こうやって塗ってごらん」と教えている姿が見られた。出来上がったたこ焼きをたこ焼き器に並べて焼く真似をし、たこ焼き屋さんになりきって楽しんでた。その後も興味を持った子どもたちも製作に加わった。年少の男の子はハサミの一回切りで刻みネギを作ってくれた。少しの時間だったけれど「ネギ、いっぱい作った」と満足気であった。子どもに大きな負担にならないように考えながら楽しいお祭りになるように準備をしていき、当日への期待につなげることができたと思う。

当日の様子は、裏ページに写真を掲載してあります。3日間ともに雨に降られることもなく、準備したことがすべてできました。当日の楽しさは何よりのことですが、そのために知恵を絞り、みんなで協力して成し遂げる体験をしました。この体験が大切で、これ以降の子どもたちの生活、行動に大きな成果を生むのではないのでしょうか。私は「プロセスが重要」と思っています。大人が与える知識も大切ですが、子ども自らが考えることが知恵になり、その後の教育の基礎となると考えています。自らの体験が裏付けとなって深く理解できるようになります。幼児教育は、「心情・意欲・態度」を培うこと、今回の体験が楽しいだけに終わらず様々な作業を通して物事を成し遂げようとする意欲を培うことができたと思います。

楽しかった体験は、しばらく再現遊びとして各クラスで続くと思います。自分のクラスにはなかったことを再現することもあるでしょう。何かになりきって楽しさを繰り返すことでそれまでと違ったその子らしさが育っていくことを期待しています。新型コロナウイルスの脅威は続きますが、今しかできないことを続けていきたいと思っています。